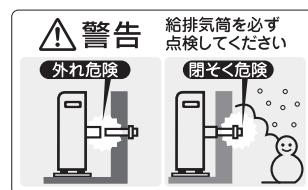
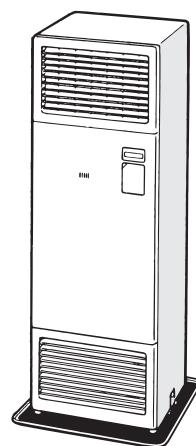
SUNPOT

サンポット石油暖房機
（密閉式石油ストーブ）

取扱説明書

型名
FF-1601TS

- このたびはサンポット石油暖房機をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
- お使いになる前に必ずこの取扱説明書をよく読んで、ストーブを正しくご使用ください。
  なお、この取扱説明書は、保証書・工事説明書と共に必ず保存してください。

お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
（ストーブを移設させる場合も同じです。）

- 取扱説明書の巻末には保証書が付いています。
  保証書はよりよい製品作りやアフターサービスの向上に役立たせていただきますので、お手数ですが所定事項のご記入をご確認のうえ、必ず保証書（販売店様控）をお買いあげの販売店にお渡しください。

サンポット株式会社

もくじ

特に注意していただきたいこと

安全のために必ずお守りください

この取扱説明書には本機を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項が表示されています。
表示内容をよくご理解いただき、本文をお読みください。

●ここに示した事項は ⚠ 警告、⚠ 注意に区分しています。

区分	内容
警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●イラスト（まんが）の横にあるマークは次のように表しています。

      マーク　禁止

   マーク　 指示

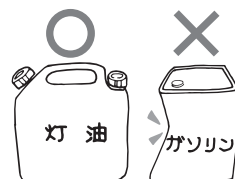
 マーク　注意

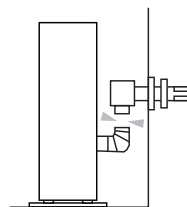
特に注意していただきたいこと つづき

⚠警告(WARNING)

ガソリン厳禁

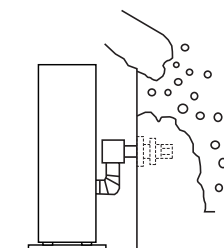
● ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

ガソリン厳禁

給排気筒(管、ホース)外れ危険

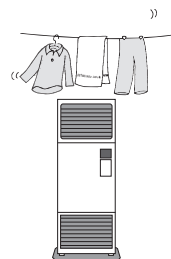
● 給排気筒(管、ホース)が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

禁止

給排気筒トップ閉そく危険

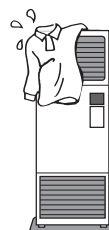
● 給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

禁止

衣類の乾燥厳禁

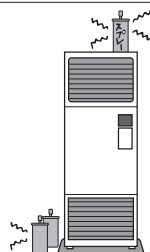
● 衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

禁止

温風吹出口をふさがない

● 衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。

禁止

スプレー缶厳禁

● スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、温風のあたるところに放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

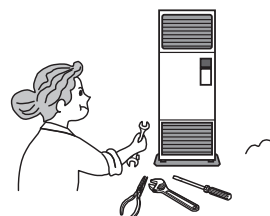
禁止

安全のために必ずお守りください

⚠警告(WARNING)

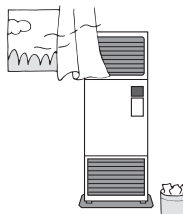
定期点検の実施

● 定期的(2年に1回程度)に点検・整備を受けてください。
点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。
点検・整備はお買い求めの販売店や資格者のいる店に依頼してください。

ご自身での据付け・移設工事の厳禁

● お客さまご自身による工事は危険です。
据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
(ストーブを移設させる場合も同じです。)

⚠注意(CAUTION)

カーテン、寝具など可燃物近接禁止

● カーテン、寝具などの燃えやすいものを近づけないでください。
火災が発生するおそれがあります。

可燃物との距離を離す

● 可燃物との離隔距離については標準据付け例(32〜33ページ)を参照してください。

給油時消火

● 火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。

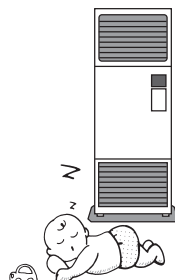
異常・故障時使用禁止

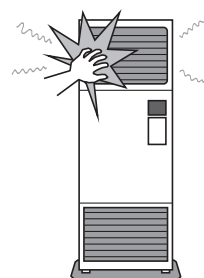
● 万一異常を感じたときは、使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

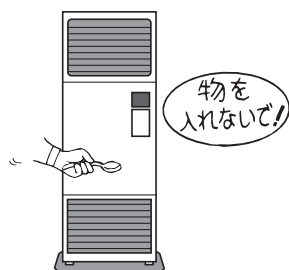
特に注意していただきたいこと つづき

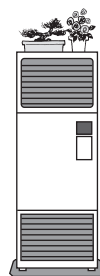
⚠注意(CAUTION)

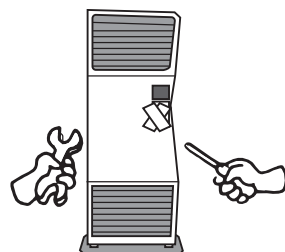
温風に直接あたらない

- 温風に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

高温部接触禁止

- 燃焼中や消火直後は、高温部(温風吹出口など)、排気筒(給排気筒トップ)に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。

指や異物を入れない

- 温風吹出口や空気取入口などに指や異物を入れないでください。
けがや火災のおそれがあります。

腰をかけたり物をのせない

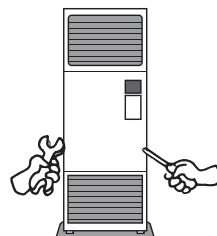
- ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。
ストーブの故障ややけどのおそれがあります。
- ストーブの上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。
水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

分解修理の禁止

- 故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。

安全のために必ずお守りください

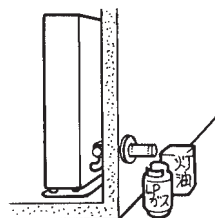
⚠注意(CAUTION)

改造使用の禁止

- 改造して使用しないでください。また、ストーブや排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
  火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。

禁止

給排気筒付近の可燃物近接禁止

- 給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。
  火災のおそれがあります。

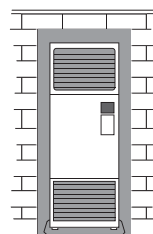
禁止

特殊な場所での使用禁止

- ストーブは居室の暖房用としてつくられたものですので、乾燥室、温室、飼育室などでは絶対に使用しないでください。また、クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では使用しないでください。
  化学薬品などの影響により異常燃焼や故障の原因になります。

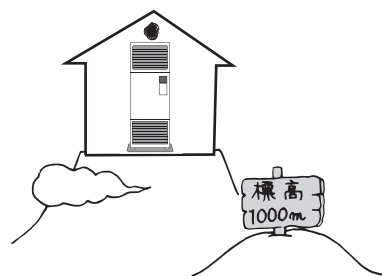
禁止

マントルピース内据付け禁止

- マントルピース内には据付けないでください。
  ストーブが故障したり、火災の原因になります。

禁止

高地注意

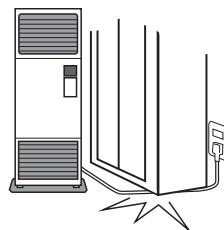
- 標高1000m未満でご使用ください。
  標高1000m～2000mで使用する場合は調整が必要です。
  (詳しくは、工事説明書の(高地で使用の場合)を参照してください。)
  そのまま使用しますと、空気不足となり、異常燃焼の原因になります。

注意

特に注意していただきたいこと つづき

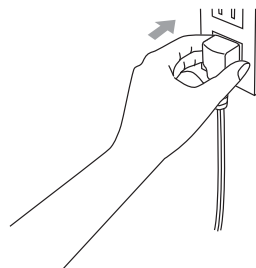
⚠注意(CAUTION)

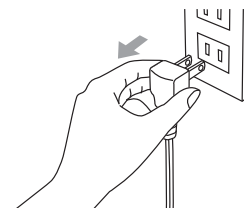
電源コードを傷めない

- 電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。

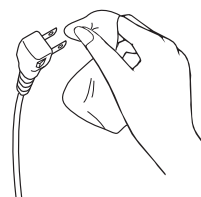
禁止

電源プラグは確実に差し込む

- 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
（また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。）
火災の原因になります。
- ぬれた手での抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。

指示

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

電源プラグのお手入れをする

- ときどきは電源プラグを抜き、ほこり(及び金属物)を除去してください。
(ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり)火災の原因になります。

指示

油漏れ確認

- 油タンクおよびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。
灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

指示

不良灯油使用禁止

- 変質灯油、不純灯油(汚れた灯油、水の混じっている灯油等)などの不良灯油を使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

禁止

安全のために必ずお守りください

お願い(NOTICE)

灯油の廃棄

- 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。
場所の選定は「据付け場所の選定及び標準据付け例」の項をお読みください。(32～33ページ参照)

■効果的に使用するために

- 冷たい外気に接する窓ぎわや壁側に据付けると、冷気が暖められて対流しますので効果的です。
- ストーブの前方に障害物があると、部屋の温度にむらができる原因になります。

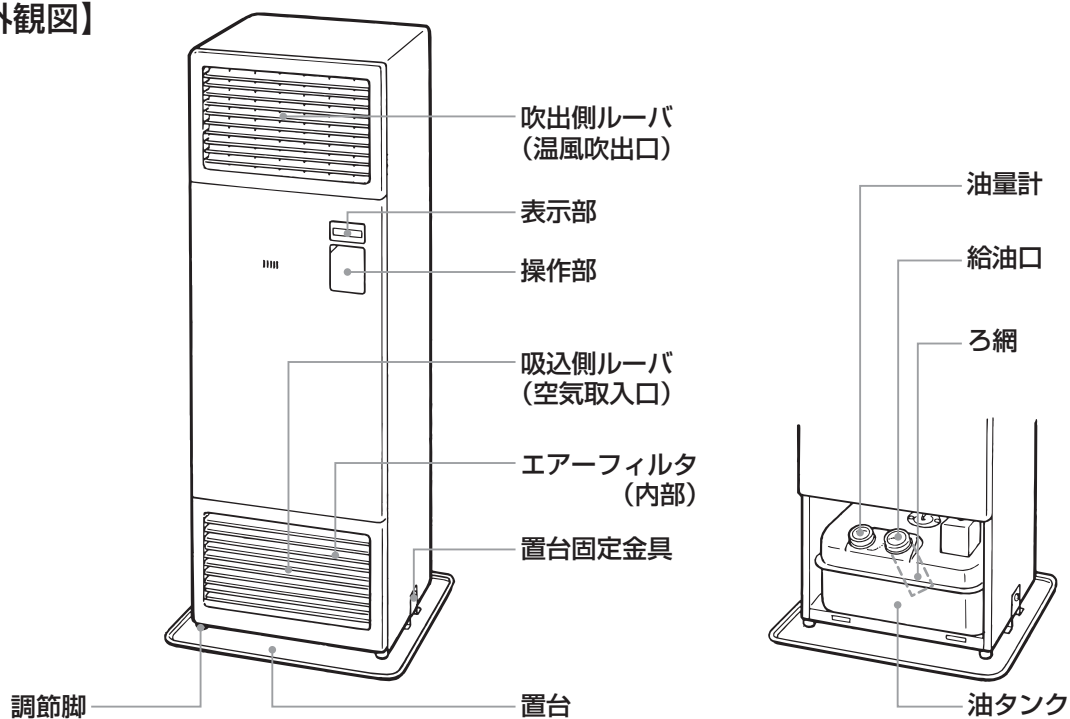
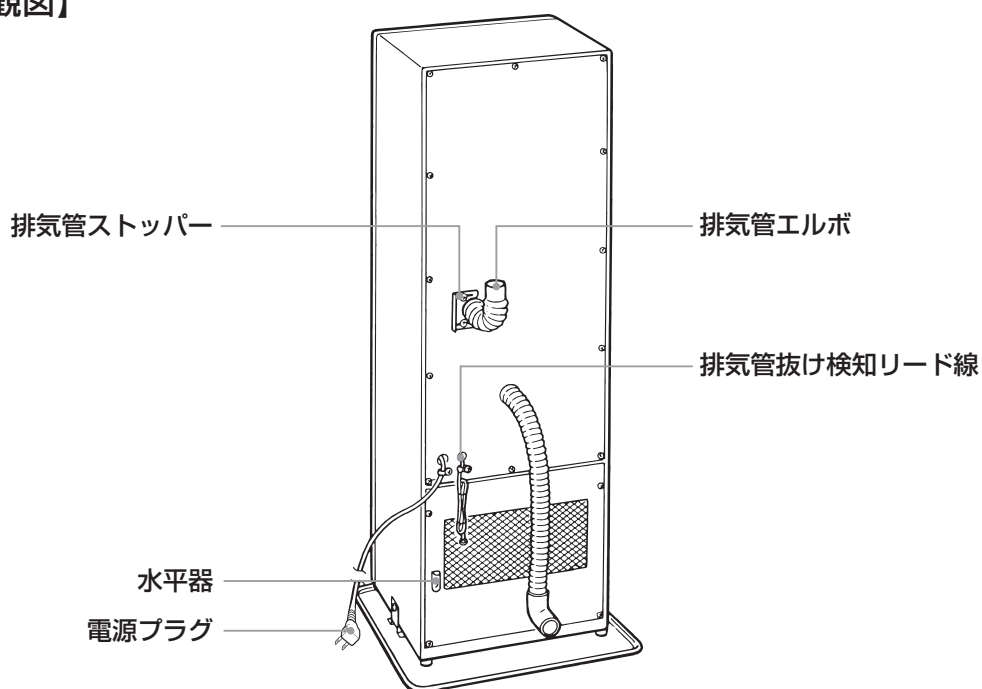
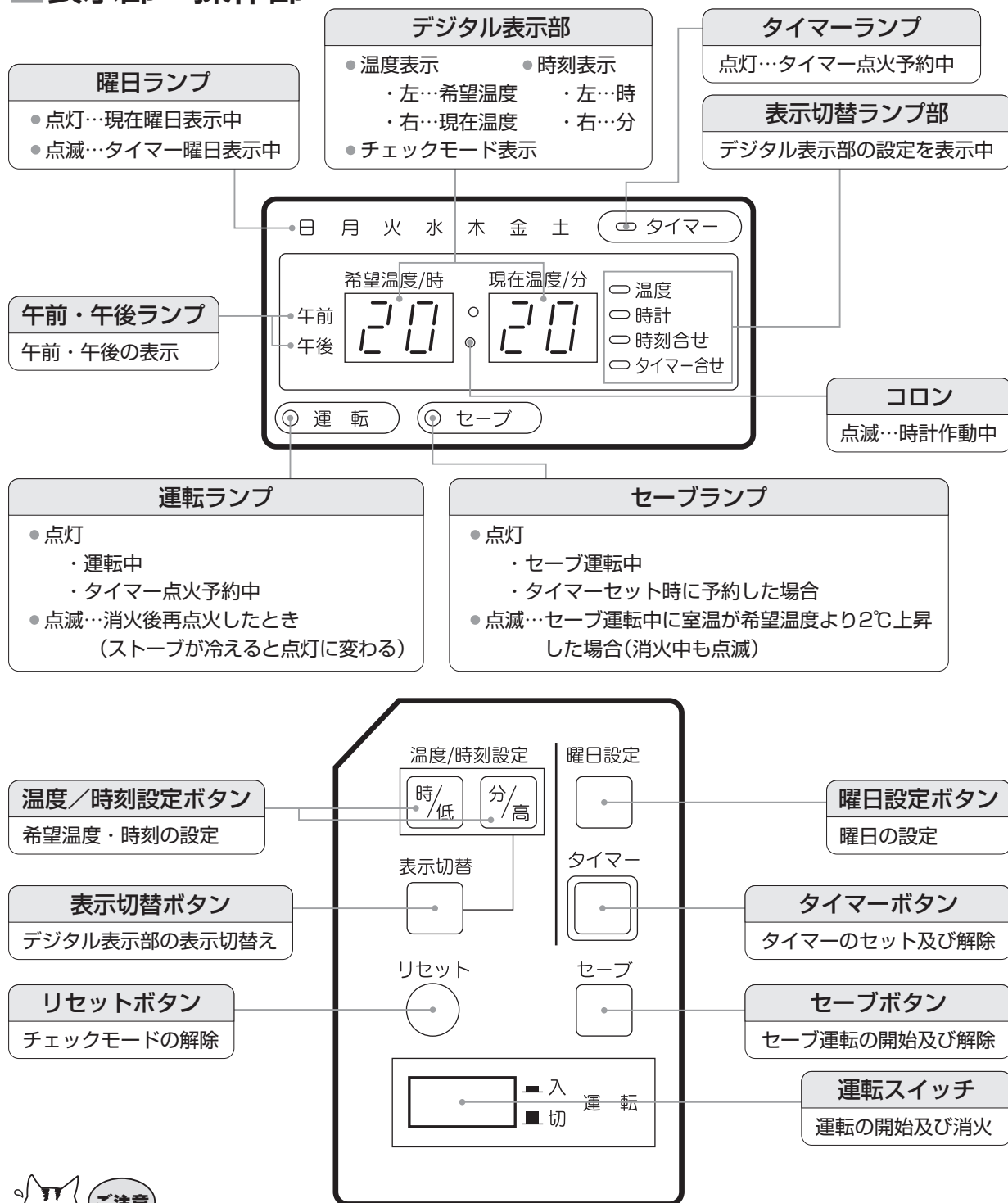
次の場所では使用しないでください。火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物をのせた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- マントルピース内
- 温室、飼育室など人のいない場所

各部のなまえ

■外観図

【正面外観図】

吹出側ルーバ
（温風吹出口）
表示部
操作部
吸込側ルーバ
（空気取入口）
エアーフィルタ
（内部）
置台固定金具
調節脚
置台
油量計
給油口
ろ網
油タンク

【背面外観図】

■表示部・操作部

●つめや金具片など、とがったもので操作ボタンを押さないでください。

使用前の準備

■燃料

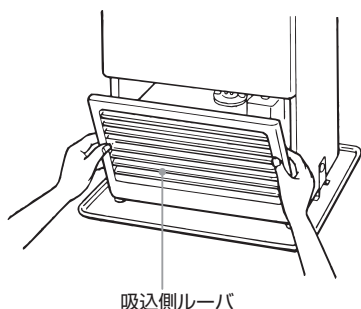
- 燃料は必ず灯油(JIS1号灯油)を使用してください。
- 不良灯油(変質灯油、不純灯油)は絶対に使用しないでください。
- 不良灯油(変質灯油、不純灯油)を使用すると機器の故障の原因になります。

■給油

給油はストーブを消火してから行ってください。

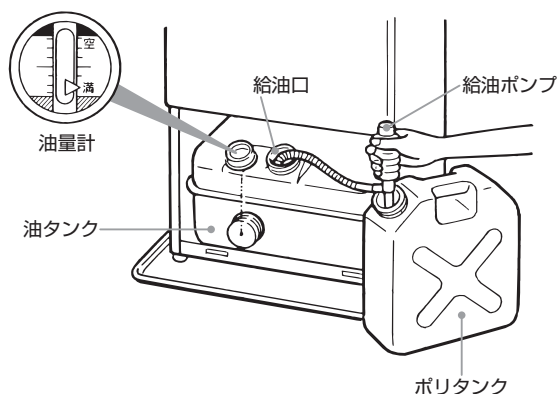
1 吸込側ルーバを開く

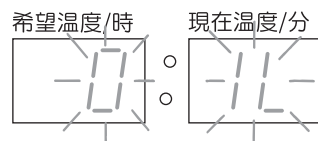
2 油タンクの給油口ふたを外し、給油する

- 油量計の表示が「満」の印以上には絶対に入れないでください。

3 給油口ふたを確実に閉める

4 こぼれた灯油はよくふきとる

- 給油するときは、ごみなどが入らないよう注意してください。
  燃焼不良の原因になります。

5 吸込側ルーバを閉める

■給油の目安

- デジタル表示部に『OIL』が点滅表示したら給油してください。給油せずに30分間燃焼しますと、『OIL』が点灯表示に変わりストーブは停止します。

燃焼量	油タンク内の灯油消費時間
最大連続(1.8L/h)	約 9 時間
最小連続(0.59L/h)	約28時間

■点火前の準備と確認

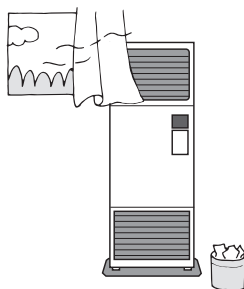
1 油漏れの確認

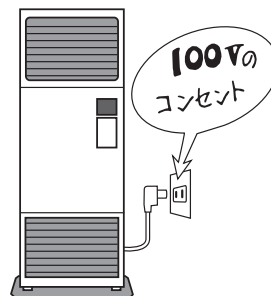
- 油タンクの周囲やストーブの置台に油漏れがないか確認してください。
  万一、油漏れしている場合は油タンクから灯油を抜き、必ずお買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所へご連絡ください。

2 ストーブ周囲の確認

- ストーブの周囲及び給排気筒トップの周囲に引火物や可燃物がないか確認してください。
  火災や予想しない事故が発生するおそれがあります。

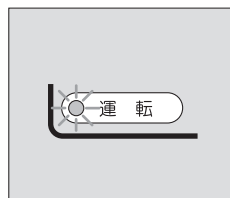
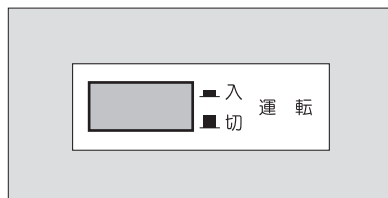
3 給気ホース・排気管の接続の確認

- 給気ホース・排気管が正しく接続されているか確認してください。
  外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、大変危険です。

4 電源プラグの接続

- 電源プラグは100Vの専用コンセントに差し込んであるか確認してください。

使用方法

点火

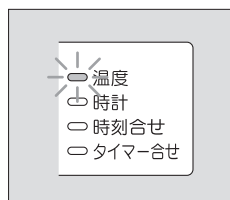
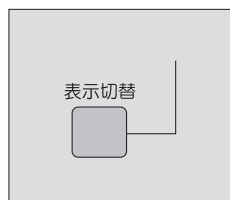
1 運転スイッチを押して、「入」にする

- 運転ランプが点灯します。
- 1～2分後着火し、4～6分後ストーブが暖まりますと温風が吹き出します。
- 消火後再点火した場合、消火操作後5秒以内であればそのまま燃焼します。それ以後はストーブが冷えるまで再点火しません。(運転ランプ点滅)

- 運転スイッチを「入」にし、デジタル表示部に『E-19』のチェックモードが表示された場合は、排気管の接続が不十分であったり、排気管抜け検知リード線が正しく接続されていないためです。運転スイッチをいったん「切」にし、ストーブが停止したのち点検し、確実に接続してから、リセットボタンを押して、運転スイッチを「入」にしてください。

室温の調節

● セットした温度になるように、火力を自動的に調節します。

1 表示切替ボタンを押して、温度ランプを点灯させる

- 表示切替ボタンを1回押すごとに温度→時計→時刻合せ→タイマー合せ→温度と順次変わります。

2 温度／時刻設定ボタンの『時／低』『分／高』を押して、お好みの温度を設定する

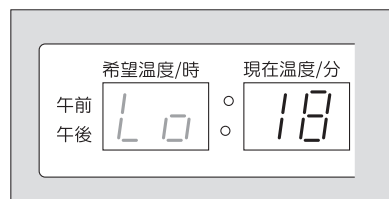
- はじめは、「20」℃に設定されています。
- 希望温度を上げたいときは『分／高』ボタンを押し、下げたいときは『時／低』ボタンを押してください。
  デジタル表示部の左側「希望温度」が変わります。
  1回押すと1℃変わり、押しつづけると連続して変わります。
- 希望温度の設定範囲は「12～30」℃です。
- 希望温度の数字は室温のめやすです。設置条件によっては必ずしも室温と一致しません。
- 希望温度は一度セットすれば記憶されますが、停電の場合には解除され自動的に「20」℃にセットされます。
- 現在温度は「5～40」の範囲で表示されます。ただし、現在温度が5℃未満で「L」、40℃を越えると「H」の文字表示となります。

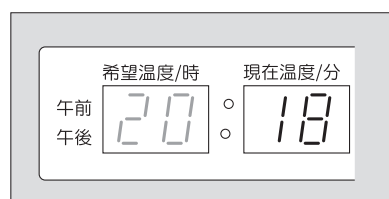
比較的暖かい時期など、設定室温より室温が上がりすぎるときにはセーブ運転をご使用ください。
燃焼・消火をくりかえし、室温を調節します。(19ページ参照)

■小固定運転

●火力を自動的に調節せずに、最小火力で燃焼し続けます。

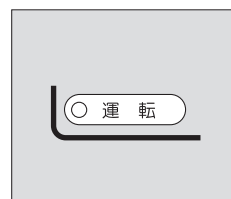
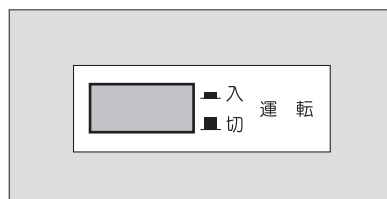
1 温度／時刻設定ボタンの『時／低』を押しつづける

●温度／時刻設定ボタンの『時／低』を押しつづけると「12」℃の次に「Lo」が表示されて小固定運転に入ります。

■小固定運転の解除

1 温度／時刻設定ボタンの『分／高』を押して、お好みの室温を設定する

●小固定運転にすると、セーブ運転はできません。
●設定されていたセーブ運転は解除されます。

■消火

1 運転スイッチを再度押して、「切」にする

●運転ランプが消灯します。

2 消火を確認する

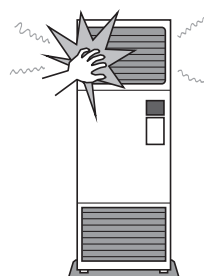
●対流用ファンはストーブが冷えるまで回りつづけます。

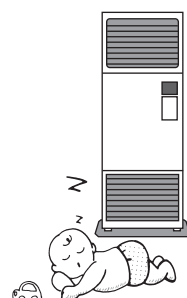
●長期間留守にするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
●電源プラグは対流用ファンが停止してから抜いてください。
●電源プラグをコンセントから抜いて運転を停止しないでください。
ストーブが過熱し、故障の原因になります。
●お出かけになるときは必ず消火してください。
運転スイッチを「切」にしてください。

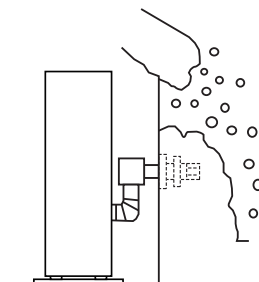
使用方法 つづき

使用上の注意

高温部に注意

- ストーブの温風吹出口は高温になりますので、やけどに注意してください。
- 特にお子さまをストーブに近づけないでください。
- 給排気筒トップや排気管は高温です。やけどに注意してください。

温風に直接あたらない

- 温風に直接長時間あたらないでください。
  低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。
  特に体力のない病人、乳幼児、お年寄りには、まわりの人が注意してあげてください。

給排気筒トップ閉そく危険

- 給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。
  閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

雷時の注意

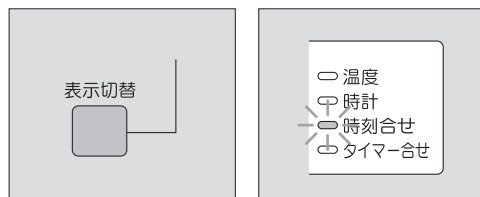
- 雷が接近したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  激しい雷の影響でストーブが故障するおそれがあります。

- シーズンオフのように長期間使用しないときは電源プラグを抜いてください。

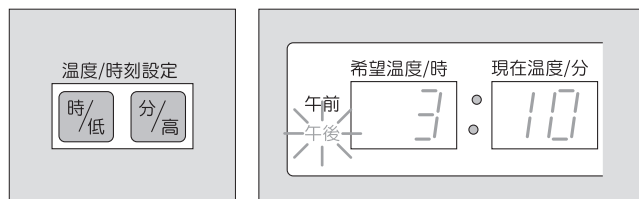
- ストーブ前面付近は、温風が熱いので熱に弱いものを置いたり、敷いたりしないでください。
  変色や変形したりすることがあります。

■時刻・曜日合せ

● はじめて使用するときや停電後、表示が[－－]:[－－]になっている場合には、時刻・曜日合せを行ってください。

1 **表示切替ボタンを押して、時刻合せランプを点灯させる**

2 **温度／時刻設定ボタンの『時／低』『分／高』を押して、現在時刻に合せる**

(例)現在時刻が午後3時10分のときは、『時／低』ボタンを押して午後3：00に合せます。次に『分／高』ボタンを押して午後3：10に合せます。

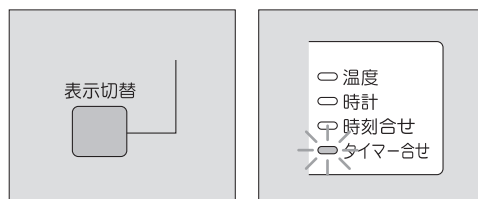
● ボタンを押しつづけると表示が連続して変わります。

3 **曜日設定ボタンを押して、曜日ランプを現在曜日に合せる**

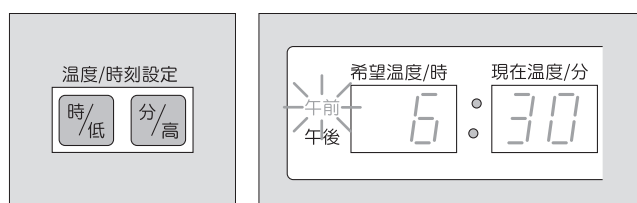
● ボタンを押しつづけると表示が連続して変わります。

使用方法 つづき

■タイマー運転 タイマー時刻合せ

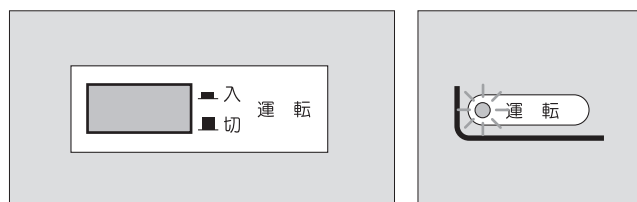
● おめざめ前の寒い朝などお好みの時刻に運転を開始します

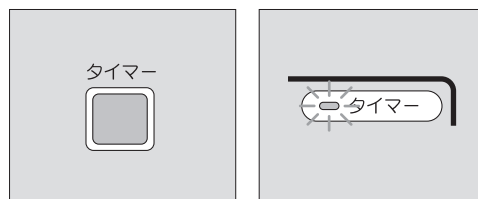
1 **表示切替ボタンを押して、タイマー合せランプを点灯させる**

2 **温度／時刻設定ボタンの『時／低』『分／高』を押して、希望の時刻に合せる**

(例)午前6時30分に点火したいときは、『時／低』ボタンを押して午前6：00に合せます。次に『分／高』ボタンを押して午前6：30に合せます。

- ボタンを押しつづけると表示が連続して変わります。
- タイマー時刻は一度セットすると記憶されますので、次からセットする必要はありません。
- 停電があると記憶が解除されます。
再セットしてください。

■タイマー運転 タイマー点火

1 **運転スイッチを押して、「入」にする**

- 運転ランプが点灯します。
- 燃焼中にセットする場合、運転スイッチを「入」にする必要はありません。

2 **タイマーボタンを押す**

- タイマーランプが点灯します。
- 1分間デジタル表示部にタイマー時刻を表示します。

3 **お好みの運転を予約する**

- セーブ運転の予約ができます。

曜日指定タイマー運転 時間設定が24時間を超える場合は、曜日を指定してください。

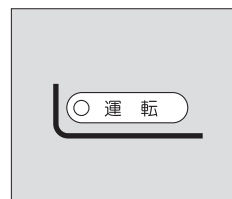
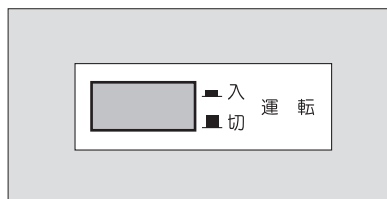
4 曜日設定ボタンで点火する曜日を指定する

- 指定した曜日ランプが点灯します。
- 曜日指定はタイマーボタンを押してから1分以内(タイマー時刻表示中)に行ってください。
- 一度タイマー曜日を指定した後に、曜日変更したい場合は、再びタイマーボタンを押して曜日を再指定してください。
- 曜日指定は記憶されません。
- 曜日指定した場合は、デジタル表示が時計の場合、指定した曜日ランプが点滅します。(現在曜日と同じ場合は点滅しません。)

- 時刻・曜日合せをしていないとタイマー運転はできません。先に時刻・曜日合せを行ってください。(16ページ参照)
- タイマー点火をする場合は、周囲に可燃物があったり、その他危険な状態のないことを確認してください。
- おでかけのときはタイマー点火をしないでください。予想しない事故が発生するおそれがあります。
- 曜日指定タイマー運転する場合、現在曜日が合っていることを確認してください。現在曜日が誤っていますと、指定の曜日に点火しません。
- 停電したときや運転中にチェックモードが表示されたときは、タイマー運転は解除されます。

■タイマーセットの解除

1 運転スイッチを再度押して、「切」にする

- タイマー時刻前に点火する場合は、再度タイマーボタンを押します。

使用方法 つづき

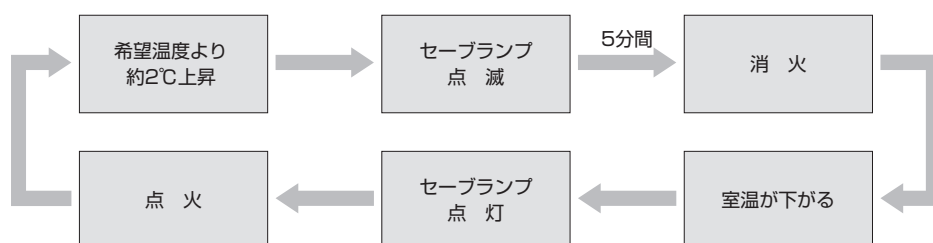
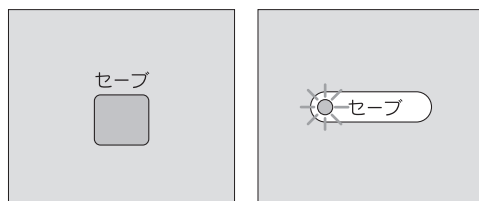
■セーブ運転

● 比較的暖い時期など、設定室温より室温が上がりすぎるときにご使用ください。燃焼・消火をくりかえし、室温を調節します。

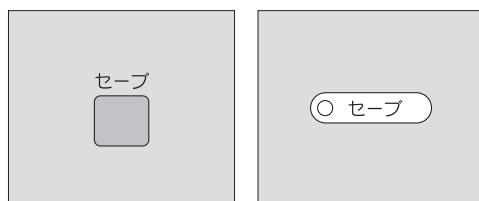
1 セーブボタンを押す

● セーブランプが点灯します。
● 室温が希望温度より約2℃上昇したときは、セーブランプが点滅となり、この状態が5分間続くと消火になります。

● 再点火は室温が希望温度に下がったとき、セーブランプが点滅から点灯に変わり、点火になります。

● セーブ運転は燃焼・消火をくりかえしますので室温の変動が大きくなります。

■セーブ運転の解除

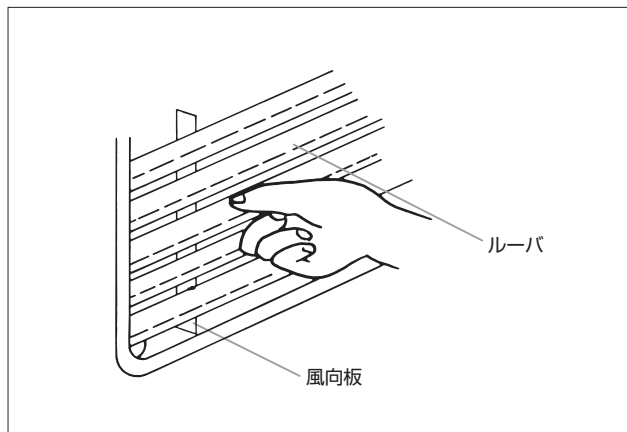
1 セーブボタンを再度押す

● セーブランプが消灯します。

● デジタル表示部左側「希望温度」に「Lo」表示されている小固定運転では、セーブ運転はできません。
● セーブ運転は一度セットすると記憶されますので、消火しても解除されません。
● 停電したときや運転中にチェックモードが表示されたときは、セーブ運転は解除されます。

■風向き調節のしかた

1 **ルーバの角度を上下に調節して、風向きを上下に変える**

- ルーバの調節はルーバの奥側を上下に動かしてください。

2 **風向板を左右に調節して、風向きを左右に変える**

- ルーバ、風向板は運転中高温になりますので、絶対に運転中は風向き調節は行わないでください。ストーブが停止して、冷えてから行ってください。

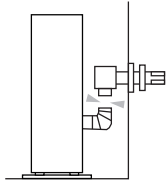
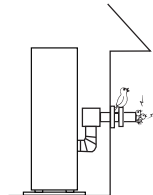
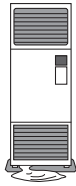
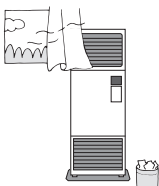
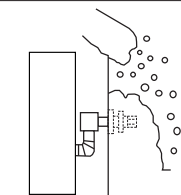
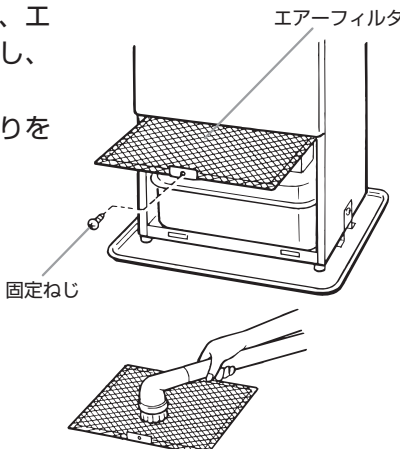
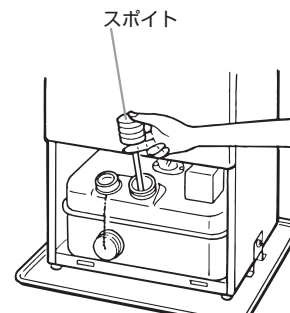
使用方法

安全装置

●異常が生じたとき、自動的に消火する装置です。

●安全装置が作動した場合、運転スイッチを「切」にし、ストーブが冷えてから下記の処置をしてください。

安全装置のなまえ ●作動の原因	チェックモード	処　置　の　方　法
対震自動消火装置 ●地震(震度5程度以上)のとき ●強い振動や衝撃を受けたとき	E-02	ストーブの周囲や給気管・排気管の外れやゆるみ、油漏れなどの異常がないことを確認しリセットボタンを押してください。
停電安全装置 ●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき	E-01	通電後、ストーブが冷えてからリセットボタンを押してください。
過熱防止装置 ●エアーフィルタにほこりがたまったり、吸込側ルーバがカーテンなどでおおわれたとき	E-07	エアーフィルタの掃除や障害物などの原因を取り除いてからリセットボタンを押してください。
点火安全装置・燃焼制御装置 ●点火不良(30分以上点火しない)	E-03	次のことを確認し、リセットボタンを押してください。 ●油タンクに灯油がない場合には給油してください。 灯油がある場合には、お買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店･営業所へご連絡ください。
●途中で火が消えたとき	E-05	

その他の装置

装置のなまえ ● 作動の原因	チェックモード	処 置 の 方 法
排気管抜け検知装置 ● 排気管接続部の外れ ● 排気管抜け検知リード線が外れたり断線したとき	E-19	排気管や排気管抜け検知リード線を点検し、確実に接続してからリセットボタンを押してください。
油切れ検知装置 ● 燃料がなくなったとき	E-10	ストーブが冷えて送風機が停止してから給油し、リセットボタンを押してください。
水検知装置 ● 油タンクに水が混入したとき	E-08	附属のスポイトで油タンクの底にたまった水を抜き取ってからリセットボタンを押してください。 (24ページ参照)

日常の点検・手入れ

■点検・手入れのときの注意

- 必ず運転スイッチを「切」にして、ストーブの運転を停止し、ストーブが冷えた状態で行ってください。

■点検・手入れの必要項目、時期、方法

時期	点検・手入れ項目	方　　　法
シーズンはじめ	給気ホース 排気管	● 給気ホース・排気管の接続箇所が外れていないか点検します。 ● 給気ホースが排気管にあたっていないか点検します。
シーズンはじめ	給排気筒トップ	● 室外の給排気筒トップが鳥の巣やビニール袋などでふさがれていないか点検します。
使用ごと	油漏れ・油のたまり・油のにじみ	● 油タンクや置台に油漏れ、油のたまり、油のにじみがないか点検します。
使用ごと	周囲の可燃物・引火物	● ストーブの上や周囲・給排気筒トップの周囲に可燃物、引火物がないか点検します。
使用ごと	排ガスの漏れ	● 排ガスのにおいや、目がチカチカしないか点検します。排ガスが漏れていますと危険です。
使用ごと	給排気筒トップ	● 給排気筒トップが雪や氷でふさがれていないか点検します。ふさがれていると異常燃焼することがあり危険です。

時期	点検・手入れ項目	方法
週に1回以上	エアーフィルタ	1 吸込側ルーバを手前に引いて、エアーフィルタの固定ねじを外し、前に引き出してください。 2 エアーフィルタに付いたほこりを掃除機などで取り除きます。
月に1回以上	ストーブ外観 安全のため、電源プラグをコンセントより抜いてから行ってください。	●ストーブ・置台などのほこりや汚れは、乾いたやわらかい布などできれいにふきとります。 ●シンナー・アルコール・ベンジンなどは使用しないでください。
1シーズンに2～3回	電源プラグ	●電源プラグにほこりが付着していないか点検します。
給油のとき	油タンクのろ網	●給油前にろ網の点検をします。 汚れていたら灯油で洗ってください。
	油タンクの水抜き	●油タンクに水が混入していないか点検します。 ●油タンクに多量の水がたまると、デジタル表示部に『E-08』が表示されますので、油タンクの給油口から附属のスポイト又は市販の給油ポンプで、油タンクの底にたまった水を抜き取ってください。

定期点検

サンポット密閉式石油ストーブは使用される場所や条件、また使用時間により消耗・劣化する部品がありますので、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL.03-3499-2928)で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕による定期点検を受けてください。

■定期点検の実施時期

2シーズン毎に1回程度定期点検を受けてください。
ただし、湿度の高いところ、ほこりの多いところ(例えば、厨房室や製綿工場など)、温泉地域などでご使用の場合は、1シーズン毎の点検が必要となりますのでお買い求めになった販売店にご相談ください。

定 期 点 検

定期点検は専門の技術者が、設置状態、給排気まわりの点検・安全装置及び運転動作の点検・確認、使用時間により消耗劣化しやすい部品の点検などを行います。
安全にお使いいただくために製品の状態を点検診断するものですから必ず受けてください。

お申し込み先

お客さま→お買い求めになった販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所。

定期点検費用

定期点検の費用についてはお買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所にご相談ください。
定期点検の結果、部品交換及び修理などが必要な場合は、処置内容及び費用についてお客さまにご相談申しあげます。

■定期点検の内容

定期点検の内容	項　　目
設置状態、給排気まわりの点検・確認	●製品の設置・使用状態　●送油経路部の油漏れ ●給排気筒接続とつまり ●給排気筒トップのつまり
安全装置及び運転動作の点検・確認	●安全装置の働き　●運転動作の点検 ●操作部品や動く部品の働き
環境・使用時間により劣化しやすい部品の点検・交換	●点火ヒータなどの点検 ●給排気部品・排気管接続用Oリングなどの点検 ●バーナ・燃焼リングなどの点検 ●各種送風機の点検　●各種パッキンの点検
製品の清掃・整備	●本体内　●エアーフィルタ・対流用ファン ●油タンクの水抜き　●ろ網　●電磁ポンプ ●電磁ポンプフィルタ　●送油経路

故障・異常の見分け方と処置方法

次のような場合は故障ではありません。

現象		原因
点火時・消火時	初めて使用するときやシーズン始めに、煙やにおいが出る	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。 異常ではありません。
	「ピチピチ」や「カンカン」という音がする	本体内部の加熱・冷却時に出る金属の膨張・収縮音です。 異常ではありません。
燃焼時	青炎の中に赤火が混じる	異常ではありません。
	炎の一部が揺らぐ	異常ではありません。
	「カチカチ」という音がする	電磁ポンプの運転音で、異常ではありません。

故障・異常の見分け方と処置方法 つづき

異常が生じた場合は下表を参照して、お客さまご自身で処置してください。

現象／原因	運転ランプが点灯しない	点火しない	炎が立上がる	デジタル表示部に表示されたチェックモード							処置	参照ページ
				E-01	E-03 E-05	E-02	E-07	E-08	E-10	E-19		
電源プラグがコンセントから抜けている	●										電源プラグをコンセントに確実に差し込む	12
油タンクに灯油がない		●			●				●		給油する	11
停電があった				●							リセットボタンを押す	21
油タンクに水やごみがある		●			●			●			水抜き、掃除する	22 24
エアーフィルタにほこりがたまっている							●				掃除する	21 24
吸込側ルーバがカーテンでふさがっている							●				カーテンを取り除く	21
給排気筒トップの先端がふさがれている			●								給排気筒トップ先端のしゃ閉物を取り除く	23
地震や強い衝撃があった						●					ストーブ周囲、油漏れ、給排気筒を点検する	21
排気管が抜けている										●	確実に接続する	22

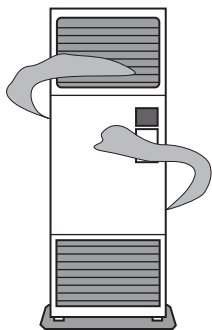
以上の方法で点検し、処置してもなおらないときは、使用を中止しお買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所へご相談ください。
修理をお申しつけのときには故障内容をできるだけ詳しく、また表示部に表示されるチェックモードをご連絡ください。

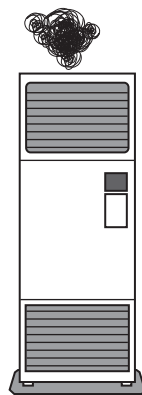
チェックモードに下記のような表示が出たときは、お買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所へご連絡ください。

このような現象のときは使用を中止し、販売店にご連絡ください

- 使用される場所や条件又は長期間の使用により、下記のような現象が見られる場合には使用を中止して、必ずお買い求めの販売店に修理依頼、又は最寄りのサンポット支店・営業所へご相談ください。

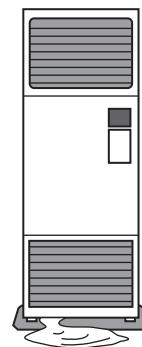
排ガスのにおいがしたり、目がチカチカする

- 排ガスが漏れているおそれがあります。
  排ガスが室内に漏れていますと、危険です。

黒煙を出して燃える

- 燃焼が異常になっています。

点火・燃焼・消火するときに「ボーン」という大きな音がした

- ストーブが損傷したり、パッキンが飛散しているおそれがあります。

置台に油が漏れている

- 油タンクや送油配管より油が漏れています。

部品交換のしかた

- 経年により消耗、劣化しやすい部品があります。
- 異常かなと思われましたら、お買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所にお問い合せください。個人での不完全な修理は危険です。
- 修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕が修理いたします。

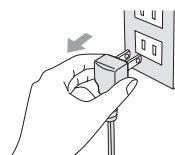
■消耗、劣化しやすい部品

項　　目	内　　容
使用時間により交換が必要な部品	点火ヒータ・排気管接続用Oリング(JIS B2401 4種D P50) 燃焼リング・各種パッキン
環境により劣化しやすい部品	給排気筒系部品・各種制御基板・燃焼用送風機・対流用送風機
不良灯油を使用されて劣化しやすい部品	電磁ポンプ

保管(長期間使用しない場合)

- 長期間使用しないとき(シーズン終了時)は、次の要領でお手入れしてください。

1 電源プラグをコンセントから抜く

- ぬれた手で触らないでください。
  感電のおそれがあります。

2 ストーブ外装、エアーフィルタの掃除をする

(24ページ参照)

3 油タンクの灯油を抜く

- 油タンク内に水やごみが残ったままにしておきますと、油タンクが腐食する原因になります。

4 ストーブは据付けたまま保管する

- どうしても取り外して保管するときは、湿気やほこりの少ないところに保管してください。
- 次シーズンに据付けるときには、必ずお買い求めになった販売店に依頼してください。

仕様

型式の呼び	FF-1601TS	
種類	ポット式、強制給排気形、強制対流形	
点火方式	電気点火	
使用燃料	灯油(JIS1号灯油)	
燃焼状態	最　大	最　小
燃料消費量	18.5kW（1.8L/h）	6.07kW（0.59L/h）
発熱量	66,670kJ/h	21,850kJ/h
熱効率	86.0%	74.5%
暖房出力	15.9kW	4.52kW
油タンク容量	20L	
外形寸法	高さ1600mm　幅542mm　奥行516mm（置台を含む）	
質量	60kg	
電源電圧及び周波数	100V　50/60Hz	
定格消費電力	最大(点火時)113/120W　燃焼時83/98W	
待機時消費電力	3.0/3.0W	
給排気筒の型式の呼び	FT-7S4	
	FWT-7M-5	
給排気筒の呼び径	D49	
給排気筒の壁貫通部の孔径	83～96mm	
排気温度	260℃以下	
電流ヒューズ	筒形20mm　5A	
安全装置	対震自動消火装置、停電安全装置、過熱防止装置、点火安全装置、燃焼制御装置	
その他の装置	排気管抜け検知装置、油切れ検知装置、水検知装置	
附属品 (※印は別梱包・別売)	置台(1)、置台固定金具(2)、壁固定金具(1)、ワイヤーバンド大(1)、排気管断熱カバー(1)、ストッパーリング(1)、4×10タッピンねじ(2)、4×25タッピンねじ(2)、排気管エルボ(1)、スポイト(1)、取扱説明書(1)、工事説明書(1)、※給排気筒セット(1)	

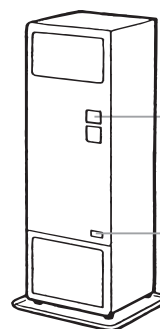
アフターサービス

■保証について

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日から1年間です。

■修理を依頼するときについて

「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って点検してください。処置してもなおらないときは、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所へご連絡ください。
修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理いたします。

ご連絡していただきたい内容	
ご 住 所	
お な ま え	
電 話 番 号	
製 品 名	密閉式石油ストーブ
型 名	FF-1601TS
お買い上げ日	年 月 日
故障又は異常の内容	できるだけ詳しく（表示部のチェックモード数字など）お知らせください。
訪問ご希望日	

- 保証期間が過ぎているときは、販売店にご相談ください。
  修理によって使用できる場合は、ご希望により有料修理いたします。
- 修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所へお問い合せください。

■補修用性能部品について

- 密閉式石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後10年です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

据付け・移設

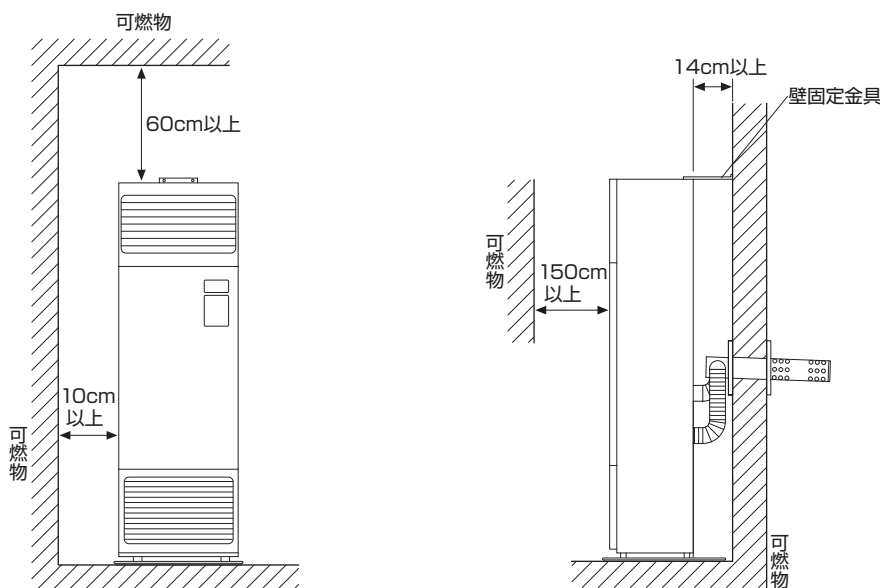
■据付け・移設工事は販売店に依頼する

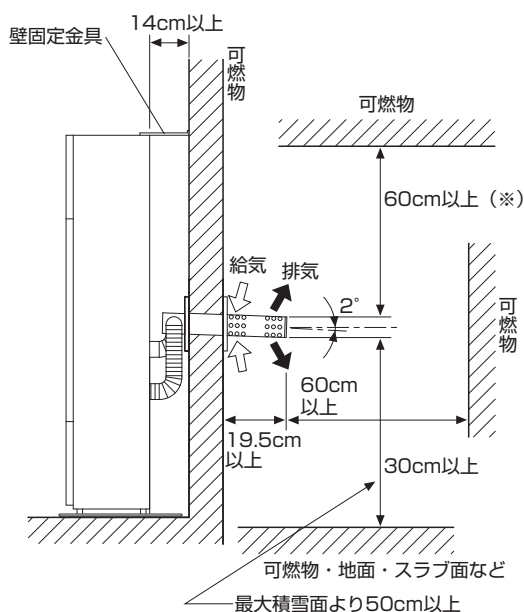
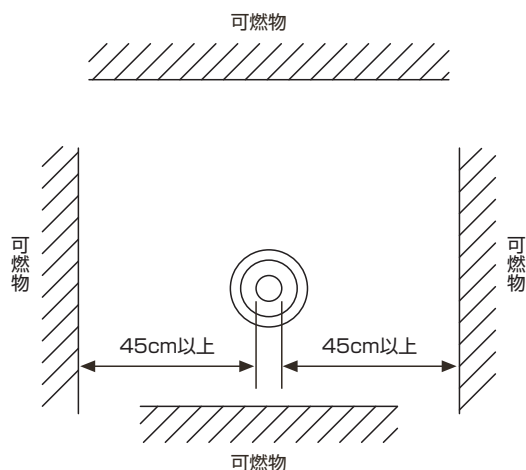
据付けや移設工事は販売店又は据付業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

■据付け場所の選定及び標準据付け例

据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり販売店又は据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、下図を参照してください。

【ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離】

● ストーブ右側面と壁面は保守点検のため30cm以上離してください。

● 上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も上図離隔距離としてください。

【給排気筒トップから周囲の可燃物までの離隔距離】

注（※）60cm以上の寸法は、不燃材を使用する場合は30cm以上とする。

- 給排気筒トップは上方及び両側に気流を阻止する障害物がないこと。
- 雪の多い地方では、最高積雪面より50cm以上離れる場所に、給排気筒を取り付けてください。
- 不燃物の場合でも性能維持のため、上図離隔距離としてください（※部は除く）。

■給排気筒を延長する場合の注意

給排気筒を延長する場合は、3m3曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。

■積雪地区における注意

積雪の多い地方では、積雪時に給排気筒が雪でふさがれないような取付場所を選定してください。また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸い込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

■据付け後の確認

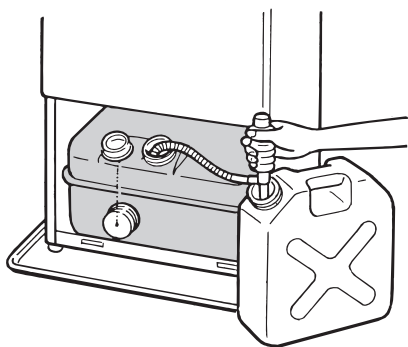
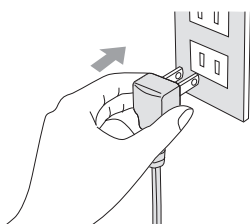
据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

- 給排気筒を延長設置している場合、延長長さは3m以下、曲がりは3箇所以下としてください。

■試運転

試運転は、販売店又は据付業者とご一緒に必ず行ってください。

運転準備

1 油タンクに給油する
（11ページ参照）

2 電源プラグをコンセントに差し込む

確認

- 油タンクから油漏れがないか。
- 置台の上などに油がこぼれていないか。

運転

1 運転スイッチを押して、「入」にする
- 運転ランプが点灯します。
- 1～2分後着火し、4～6分後ストーブが暖まりますと温風が吹き出します。

消火

1 運転スイッチを再度押して、「切」にする
- 運転ランプが消灯します。
- 対流用ファンはストーブが冷えるまで回りつづけます。

正常運転の目安
- 正常運転の目安として28ページのような現象がないことを確認します。

- ストーブより煙やにおいが出ることがありますが、燃焼室の塗装やパッキン類が焼けるためで異常ではありません。最大燃焼で数十分運転すると消えますので、部屋の換気をしながら試運転してください。

点検・その他

切り取り線

保　証　書（販売店様控）

型　　　名	FF-1601TS
★製 造 番 号	No.
保 証 期 間	1　年

★お買い上げ日	年　　月　　日
★お　客　様	ご住所 お名前 電　話　（　　　）

★販　売　店	住所・店名 ㊞ 電　話　（　　　）

★印欄に記入の無い場合は無効となりますので、必ずお確かめください。

販売店様へのお願い

⑴ 本保証書（販売店様控）及び次のページの保証書（お客様控）の★印欄に必ず必要事項をご記入の上、本保証書は切り取り線より切り取り保管し、次のページの保証書（お客様控）は本取扱説明書とともにお客様にお渡しください。
※カーボン紙を差し込んで次のページに複写してください。

⑵ 本保証書に記載したお客様の個人情報は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のため以外には使用しないでください。

修理メモ

サンポット株式会社
〒025-0301　岩手県花巻市北湯口第2地割1番地26
お客様相談窓口　TEL　0198-37-1177

保　証　書（お客様控）

型　　　　名	FF-1601TS
★製　造　番　号	No.
保　証　期　間	1　年

★お買い上げ日	年　　月　　日
★お　　客　　様	ご住所 お名前 電　話　（　　　）

★販　　売　　店	住所・店名 ㊞ 電　話　（　　　）

★印欄に記入の無い場合は無効となりますので、必ずお確かめください。

〈無料修理規程〉

1．取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い上げの販売店が無料修理致します。
2．保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、お買い上げの販売店にご依頼の上、出張修理に際して本書をご提示ください。なお、離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3．器具はきびしい品質管理のもとに生産しておりますが、使用される場所や条件、又は使用ひん度等で変化することは避けられません。従って未然にトラブルを防止し、末永く安心してご使用いただくために、２シーズンに１回程度シーズンはじめか保管する前のどちらかに（石油ふろがま、石油給湯機は１～２年に１回程度）、専門技術者による点検整備を依頼されることをおすすめします。点検整備・交換部品の費用はお客様にご負担いただきます。
4．ご転居の場合は事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
5．ご贈答品等で本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理がご依頼できない場合には、取扱説明書裏面に記載の最寄りの当社支店・営業所にお問い合せください。
6．保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
　（イ）使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
　（ロ）お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障及び損傷
　（ハ）火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧、給水の供給時事等（石油ふろがま、石油給湯機）による故障及び損傷
　（ニ）指定以外の燃料、不純燃料の使用による故障及び損傷
　（ホ）特殊使用（例えば、車両、船舶への搭載等）に使用された場合の故障及び損傷
　（ヘ）本保証書の提示のない場合
　（ト）本保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、或いは字句を書き替えられた場合
　（チ）条例等に適合しない据付工事が行われたことによる故障及び損傷
7．本書は日本国内においてのみ有効です。
8．本書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期限経過後の修理等についてご不明な場合は、お買い上げの販売店または取扱説明書裏面記載の最寄りの当社支店・営業所にお問い合せください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書をご覧ください。
※お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動、及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

サンポット株式会社
〒025-0301　岩手県花巻市北湯口第2地割1番地26
お客様相談窓口　TEL　0198-37-1177

サンポット株式会社

お客様相談窓口〔受付時間：平日午前9時から午後5時まで〕
☎0198-37-1177　FAX.0198-37-1192

札 幌 支 店	〒065-0042	札幌市東区本町2条10丁目1番25号	☎011-785-1211	FAX.011-782-8262
釧路営業所	〒085-0051	釧路市光陽町8番1号	☎0154-22-5821	FAX.0154-32-2289
帯広営業所	〒080-0023	帯広市西13条南11丁目9番地	☎0155-22-1335	FAX.0155-28-2266
旭川営業所	〒078-8237	旭川市豊岡7条6丁目6番10号	☎0166-34-8636	FAX.0166-39-2157
函館営業所	〒041-0851	函館市本通4丁目17番25号	☎0138-53-2583	FAX.0138-33-2180
仙台営業所	〒983-0034	仙台市宮城野区扇町4丁目2番40号	☎022-236-3444	FAX.022-238-9416
郡山営業所	〒963-0205	郡山市堤2丁目5番地	☎024-962-9288	FAX.024-962-9266
青森営業所	〒030-0131	青森市問屋町2丁目18番18号	☎017-738-4141	FAX.017-738-5354
秋田営業所	〒010-0914	秋田市保戸野千代田町15番17号	☎018-824-3421	FAX.018-824-3423
岩手営業所	〒025-0301	花巻市北湯口第2地割1番地26	☎0198-37-1138	FAX.0198-37-1188
首都圏営業所	〒352-0001	新座市東北2丁目24番3号	☎048-471-8420	FAX.048-470-1141
信越営業所	〒381-0031	長野市大字西尾張部1114番地5	☎026-252-6161	FAX.026-252-6162
大阪営業所	〒564-0053	吹田市江の木町18番27号	☎06-6337-3211	FAX.06-6337-3212
富山営業所	〒939-8212	富山市掛尾町479番地4	☎076-420-2677	FAX.076-420-2238

サンポットエンジニアリング株式会社

サービス部	〒065-0042	札幌市東区本町2条10丁目1番25号	☎011-785-1201	FAX.011-780-2338
青森サービスセンター	〒030-0131	青森市問屋町2丁目18番18号	☎017-738-4414	FAX.017-738-4415

サンポットホームページ　http://www.sunpot.co.jp/

事業所名・住所・電話番号は変更することがあります。あらかじめ了承願います。

愛情点検　●長年ご使用の石油暖房機の点検をぜひ！

ご使用の際、こんな症状はありませんか？	●油漏れがある。 ●排ガスのにおいがしたり、目がチカチカする。 ●運転中異常な音がする。 ●黒煙を出して燃える。 ●その他の異常や故障がある。

ご使用中止	このような場合、事故防止のため使用をせずスイッチを切りコンセントから差し込みプラグを抜いて、必ずお求めの販売店または石油機器技術管理士や点検整備士に、点検修理をご相談ください。ご自分での修理は危険な場合がありますから、絶対なさらないでください。

ご購入(据付)年月日	年　月　日
ご購入店名	
	TEL.

お客様へ……おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。

32400055400
2188